

上級新聞クラス「日本の学力低下の原因とその対策」レポート

上級新聞クラス

(2007年2月23日)

恒例になっています「新聞を読み、話しあう授業」の公開授業が今年も、去る2月23日に行われました。当日は嵐のような大雨になってしまいましたが、それにもかかわらず参加していただいた方々には深く感謝しております。

今回のテーマは『日本の学力低下の原因とその対策』で、参加者は上級クラスの学生14名(中国人13名、シンガポール人1名)、日本人10名でした。参加者が4つのグループに分かれ、提示された問題についてそのグループの中で話しあいそれを発表するというスタイルで授業は行われました。

まず、日本の学力低下の現状について新聞記事で確認しました。経済協力開発機構の学習到達度調査(PISA)、国際教育到達度評価学会の国際数学・理科教育調査(TIMSS)の発表によると、参加した国の中で国語の読解力は前回の8位から14位に、数学的応用力は前回の1位から6位に落ちたということです。新聞の大見出しは『日本、学力大幅に低下』となっており、「由々しき問題だ」と感じさせる内容です。早速その原因としてどんなことが考えられるかを話しあってもらったところ、学生の意欲の低下、将来の目標がないこと、テレビゲームの蔓延などが挙げられました。

更に新聞を読み進めると、日本の高校生の意識調査の結果、日本の高校生は「リーダーシップの強い生徒」になりたいとは思わず、「クラスみんなに好かれる生徒」を目指している。「いい大学に入れるよう頑張りたい」と思う学生の割合が中国、韓国に比べ格段に低いという現状が明らかになりました。それについては、日本はいじめが深刻だからみんなと同じようなレベルで、みんなに好かれることが重要なのだろうという意見が大半でした。中国でもやはりリーダーシップをとって目立てば、先生には気に入られるが、友だちには疎まれるということはあるようで、「リーダーシップの強い生徒」になりたいかどうかは意見の分かれるところでした。

次に、学力を向上させるにはどうすればよいかを話しあってもらったところ、能力別クラスの導入、教師は学生が興味をもつように面白い授業を工夫するべき、教師は厳しさが必要で勉強しない学生には罰を与えるべき、教師は罰ではなく学生にご褒美を与えるべきなどの意見が出ました。特に興味深かったのはTIMSSの調査の数学理科部門でトップだったシンガポールの現状をシンガポール人の学生が紹介してくれたものです。シンガポールでは国を挙げて教育に力を入れていて、小学校3年生から能力別クラスがあり、統一試験の優秀者は一般紙に写真入りで掲載されるということです。この話の後、能力別クラスの是非について様々な意見が出ましたが、やる気があり能力が高い(あるいは自分で能力が高いと思っている)学生ほど能力別クラスを歓迎する傾向にあるよう

です。

最近では当校でも学習意欲が乏しい学生の姿を目にすることが増え、頭を悩ませていたので学生から出された意見も今後の授業運びの参考にさせてもらいたいと思いました。

(西野敦子)

上級新聞クラスに参加した感想

私は日常的に街や車中で出会う外国人の言葉を耳にしたとき何を話しているのかわかりませんが、世の中には多種類の言語があるものと興味深く思っています。最近、私は外国人に日本語ボランティアを始めました。私たちのメンバーの某方に日本語学校の公開授業を見学できる機会があるからと紹介していただきました。当日、学校へ行き教室へ案内されて日本語を学ぶこれほど多数の留学生に出会えたのは初めてでした。緊張しながらも明るくはつらつとしている若者らしい姿に親しみを覚えました。授業は『最近の学力低下』という気になる話題で討論形式でした。彼らは教師の提示した話題について興味を示し、流暢な日本語でジョークも交えながら活発に意見交換を始めました。彼らは討論の過程で理解をさらに深めたのではと思いました。話題関連の新聞記事などの読み取りでは、学生たちは仲間が声を出して読む記事に耳を澄まし、積極的に授業に参加していました。ある学生が漢字や文章の読み方を戸惑ったり間違えたときには、周囲から訂正の読みの声が上がリ、意欲的な授業が展開していました。学生の読み方を聴きながら、この漢字はどう読むのかと私が一瞬考えているうちに容易く読み終わっていました。留学生が漢字交じりの新聞記事などの文章を声に出して熱心に読んでいる姿に、皆々の先生方が学生の日本語学習力を向上させるために、日々、努力・研鑽を惜しみなく積んでいるものと思いました。学生たちが明朗・闊達に意見発表しながら日本語学習している姿に、将来への精進を期待します。今日は、貴重な授業参加の機会に恵まれて、先生方と留学生の皆様にご挨拶いたします。一歩前進への日本語学習を勉強させていただきましてありがとうございました。

(稲村宏子 新宿区日本語ボランティア)

学生の感想

2003年の国際学力比較調査によると、世界各国の15歳の生徒が対象の学習到達度で日本の順位が、以前の上位から中位に転落したことが明らかになった。2月23日に日本人の方々と学力低下について四つのグループに分けて討論会を開いた。まとまった結論は出なかったが、第三者の立場で日本の教育問題を改めて考えるようになった。ディスカッションは主に学力低下を引き起こした原因とこれからの改善方法について行った。みなそれぞれ自分の意見を述べたが、その中で私が最も感じたところは以下の三点であった。

第一は「ゆとり教育」の問題である。ゆとり教育を実施して以来賛否両論の状態が続き、生徒の学力低下を引き起こした一番大きな原因はゆとり教育だという意見も大多数であった。確かに今のままでは誰でも納得できないだろう。しかし、全面的に否定することはできないと私は思う。なぜかという、総合的な能力が強い人材を育成するためには、今までやってきた詰め込み教育よりゆとり教育の方が望ましいからだ。ただし、教育専門家の話によると、ゆとり教育の成果が出るまであと十数年かかるということだ。

第二、生徒自体にも幾つか問題点があると思う。戦後、日本の社会が豊かになった一方、消費中心の文化が生まれてきた。子供たちは親の過保護の中で甘やかされて育っている。「欲しい物があったら親に言えばすぐ買ってくれる」「勉強しなくても親がいるから将来のことに関しては心配ない」等等、中高生になっても精神的にはまだまだ成熟していないのは一目瞭然だ。今何をやれば良いのかという自覚さえできてない。親の価値観も昔と違って、子供をきちんとしつけることもできなくなってきた。そうした結果、子供は自分勝手に悪い事をして謝ることを知らず、一切を他人のせいにするようになってしまう。

第三、学力低下を改善するには授業をより面白くすることが大事であると思う。元来、子供たちの好奇心が旺盛である。授業が退屈だと学校が楽しくないと思い、だんだん学校に行かなくなってしまう恐れもある。現在の日本の教育現場を見ると、教師は子供たちの生活指導のことで精一杯で、授業の教え方とかどうすれば生徒たちが授業に興味を持つようになるかなどに工夫する余裕がない、というのも現実である。生活指導と授業とどっちが重要であるか教師たちに改めて考えてもらいたい。

以上は学力が低下した原因をおおむねにまとめたものである。改善方法には触れてないが、今後に残された一つの課題として考えていきたいと思う。

(2007年3月 TIJ 卒業生 巖生花)